

# “サッカー討論番組”が面白い理由

～人気番組「メーザ・ヘドンダ」の魅力に迫る～

サッカー先進国ではお馴染みとなっているのが、出演者たちが様々な論議を交わす、サッカー討論番組だ。それは、サッカー王国ブラジルも同じで、大手テレビ局ガゼッタが誇る人気番組「メーザ・ヘドンダ」も同じだ。毎週日曜日の夜に2時間半に渡って放送される同番組は、ブラジルがブラジルである所以を随所に垣間見せてくれた。



## 王国 サッカーメディア 潜入

その1

文●中山 淳  
Text by Atsushi Nakayama  
写真●クラウジオ・フレイタス  
Photo by Claudio Freitas

### 人気のサッカー討論番組には サッカー文化の高さが伺える

スタジオセットは、予想以上に質素だった。円卓状のデスクを、だいたい4分の1ほど切断してカメラの前にセッティングした格好である。

そのデスクの脇に司会者が立ち、デスクには6人のゲストが座る。番組途中、そこにその日のスペシャルゲストが割って入るのだが、取材当日は現役選手が二人、しかもそのうちの一人はアルゼンチン代表で現在はコリンチャンスでプレーするデヴェスだった。

サンパウロの大手テレビ局の一つ、ガゼッタが誇る人気サッカー番組が、この「メーザ・ヘドンダ」である。意味としては、文字通り“丸い机”=討論する、ということになる。放送は毎週日曜日の夜9

時30分から深夜12時まで。なんと2時間30分もかけて、その週末の試合やサッカーの出来事について、ゲストが様々な意見を述べ合い論議するのだ。

その間、視聴者からのメールをアシスタントが読み上げたり、サッカー業界以外からのゲストも円卓デスクとは逆サイドに置かれたソファに座り、その模様を眺めては、ときどき司会者から質問をふられてコメントをする、という流れで番組は構成されている。

それは、サッカー討論番組の典型的なスタイルだと言っていいだろう。しかし、典型的とは言ったものの、日本にその手の番組があるかと言えば、残念ながらもまだ存在しないのが実情だ。確かに日本人はディベート下手を自認する国民だが、いつかは実現して欲しいと願う、日本テ

レビ界が目指すべき番組でもある。訪れた目的は、そこにあった。

番組が始まると、早速その週末に行われた試合のダイジェストが一試合一試合順番に流れ、試合ごとに円卓で討論会が行われる。ゲスト全員がにこやかに話す場面もあれば、意見のぶつかり合いから討論がヒートアップする場面もある。少なくとも、沈黙のまま時間が流れることは一度もなかった。サッカーを語る言葉は、実に豊富だった。

まだ放送する側の一方的な情報や意見だけが流されるだけの日本の現状を考えると、ブラジルと日本のサッカー文化のレベル差を痛感する。

いつかはサッカー討論番組を、番組を見た国民は、きっとサッカーを語る言葉を劇的に増やさないで欲しい。

制作  
プロデューサーに  
聞く!  
討論番組はブラジルの  
伝統と文化を象徴している



人気のサッカー討論番組の敏腕プロデューサーとして知られるイジウド氏が、「メーザ・ヘドンダ」の歩みと番組制作のポイントについて、色々話してくれた。彼が最も大切にしている、視聴者のニーズとは一体どんなものなのだろうか？

### 制作する上で最も大切な点は 視聴者のニーズに応えること

——まず、この番組の始まった時期と、そのきっかけを教えてください。

イジウド：スタートは17年前です。このガゼッタという局は、元々こういったスポーツ番組のバイオニアで、以前からこの手の討論番組が存在したのです。

——他にも存在していたのですか？

イジウド：「カンピオン・エスタ・ボール」という番組で、ガゼッタが既にこういった番組を始めていて、それでメーザ・ヘドンダがその後出来たのです。

——ブラジル人はこういったサッカー番組で討論するのが好きなのですか？

イジウド：ええ。ブラジル人はまるでサッカーというスポーツがブラジルで生まれたかのように思っていて、各都市で、たとえばリオとかでもこのようなサッカー番組が存在していますね。

——討論番組に対して、視聴者が一番求めていることは何ですか？

イジウド：とにかく視聴者は色々な情報を知りたいと思っています。ということが起きているのか、そこに何が起きているのか、そこには、このような番組が一番よいのです。ゴールシーンを見るのも楽しみだし、クラブで何が起きているのかを知りたいし、それから自分の好きなスター選手が話しているところも見

たい。またその話の中で、選手の私生活というか、その選手のパーソナリティも見てくるというところを、視聴者は楽しみにしているようですね。

——番組づくりのポイントは、どんなところに置いていますか？

イジウド：一番大事なのは、やはりゲストと呼ぶ選手ですね。高いレベルの選手を集めるようにしています。あとは内容、例えば今日の場合だったらペレの話を持ってくるとか、インパクトのあるものを持ってくるようにしています。

——司会のフラヴィオについてはどのような印象を持っていますか？

イジウド：エクセレントですね。最高の仕事をしてくれていると思います。特に彼は私の仕事を楽にしてくれる。選手に好かれているし、とても親近感が持てるし、もちろんサッカーのこともよく知っているの安心して任せられます。例えばアグレッシブなタイプの司会者だと選手があまり話をしてくれないのです。そうすると番組プロデューサーとして大変困るんですけど、その点、フラヴィオはすごく上手なので番組の進行上でも、私を助けてくれています。だからといってフラヴィオは選手のことを煽りあげたり、褒めたりするだけではなく、批判もするしミスの指摘もする。ただ、その姿勢が礼儀正しいので、選手も嫌悪感を

持たず聞き入れることができるのです。もちろんサッカーの知識が豊富なのであって、説得力もありますね。

——討論の最中に、エキサイトして喧嘩になつたりしませんか？

イジウド：まあ攻撃的な討論になることはありますよ。

——殴ったりは？

イジウド：以前、エドワルド・アモリウがコリンチャンス監督をしていたときのことですが、酷い試合があって、それをゲストのシッコ・ランギが批判したら、それをきっかけに監督がクビになってしまったことがありました。シッコはコリンチャンスの大ファンで、サポーターの代表みたいなものですが、それに対して監督が激怒してここにやって来て、殴りかかろうとしたことがありました。

——そのときは仲直りしたのですか？

イジウド：ええ、ボディガードを中心にみんなで監督をなだめ、落ち着かせて対処しました。二人は、今ではもう良い関係に戻っていますけどね。

——外国の番組を参考にしますか？

イジウド：もちろん、いろんな番組を参考にしています。どのような番組でもね。とにかくボールが出ていて、サッカーをしていれば何でも参考にします。

——最も苦労する点はなんですか？

イジウド：良い選手をゲストに呼ぶことです。色々な人とコンタクトをとり続け、私の場合、選手の電話番号も知っている。それと代理人やエージェントと常に良い関係を保つことによって、こちらのオファーに応じてもらえます。

——逆に一番よかった点はなんですか？

イジウド：だいたいいつも4、5人の選手を招待するのですが、それが最高の選手ばかりだと、第一目標が達成されます。そしてテーマが面白くて、コメントーターの話が盛り上がり、とても楽しく番組が進行する。そして色々な情報を視聴者に届け、最後に高い視聴率がとれたときには、やっぱり嬉しいですね。

——同じような番組を、他の局でもやっているのですか？

イジウド：ええ。どれも平均化して、どこか一つが飛び抜けていることはないですね。ただメーザ・ヘドンダは、ガゼッタにとってバイオニアの番組で、他はそのコピーをしているようなものなのです。それを私は誇りに思っています。